

# 2019 年度 4 年次アンケート調査の結果報告

2020 年 9 月

東京女子大学 IR 専門委員会

## 2019 年度 4 年次アンケート調査の結果報告

本学では、毎年 12 月～2 月にかけて、4 年次を対象とした「教育・学生生活に関するアンケート調査」（以下「4 年次アンケート」と表記）を行っている。このアンケート調査は、学部最終学年である 4 年次の学生が、本学の教育内容や学生生活についてどのような意識を持っているのか、また本学学生の学習実態などを明らかにすることで、今後の教育改善に活かすことを目的としている。ここでは、2019 年度に実施した 4 年次アンケートの主な項目の分析結果を中心に報告する。

調査概要は以下の通りである。

目的：東京女子大学に通っている学生の学習及び大学生活に関する意識・実態調査

方法：質問紙調査

対象：東京女子大学に在籍している 4 年次学生、1077 名（2020 年 1 月 1 日時点）

調査期間：2019 年 12 月 9 日～2020 年 2 月 25 日

有効回答数：925 名

有効回答回収率：85.9%

調査項目：アンケートの調査票は「基本事項」、「学業」、「学生生活」、「課外・学外の活動」、「学修支援」、「進路」、「その他」（自由記述）の項目で構成している。

本報告書では、「学業」に関する項目から、大学 4 年間の学生生活を通じての授業に対する満足度や、身についたと思うスキル・能力等を報告する。

また、本報告書で用いるデータは全数調査によるものなので有意確率（ $p$  値）は報告せず、平均値・標準偏差および効果量（ $\eta^2$ ）のみを報告する。なお、 $\eta^2$ については、Cohen(1988)の基準  $\eta^2 = .01$  (small) ,  $\eta^2 = .06$  (medium) and  $\eta^2 = .14$  (large) を用いた。

なお、参考のため過去 5 年間の回収率を表 1 に示しておく。回収率は、全ての年度において 8 割を超えている。

表 1 年度別に見た 4 年次アンケートの回収率

2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
87.6%	86.3%	84.4%	83.9%	83.8%	85.9%

## (1) 授業に対する満足度に対する集計・分析結果

「授業全般」、「全学共通カリキュラム科目の授業」、「第一外国語科目等の英語の授業」「学科科目（専門）の授業」「卒業論文、Final Presentation、数学講究、情報理学講究」の5つのカテゴリー別に、大学4年間の学修を通じての授業の満足度を尋ねたところ、表2のような結果となった。「大変満足している」、「満足している」、「どちらかと言えば満足している」の3つを合計した割合は、「英語の授業」と「第二外国語科目」を除く項目で9割以上であった。「英語の授業」・「第二外国語科目」に関しても8割を超えており、授業に対する満足度は全体的に高いと言える。

表2 授業に対する満足度

	大変満足 している	満足 している	どちらか と言えば満足 している	どちらか と言えば満足 していない	満足 していない	全く満足 していない
	% (n)	% (n)	% (n)	% (n)	% (n)	% (n)
授業全般	10.9 (100)	48.7 (447)	36.0 (330)	3.8 (35)	0.4 (4)	0.1 (1)
全学共通 カリキュラム	10.2 (93)	45.8 (418)	38.0 (347)	5.4 (49)	0.5 (5)	0.1 (1)
第一外国語科目等 の英語の授業	8.0 (73)	37.5 (343)	38.0 (348)	10.8 (99)	4.6 (42)	1.1 (10)
第二外国語科目	11.5 (105)	40.1 (366)	37.8 (345)	7.9 (72)	2.0 (18)	0.7 (6)
学科科目（専門） の授業	20.5 (188)	46.6 (426)	28.3 (259)	3.7 (34)	0.8 (7)	0.1 (1)
卒業論文、Final Presentation、 数学講究、 情報理学講究	20.4 (187)	44.7 (409)	27.1 (248)	6.6 (60)	1.1 (10)	0.2 (2)

注：各項目について欠損値（8～13人）を除いて集計した結果である。

授業に対する満足度を専攻別、志望順位別に比較するため、まず「大変満足している」=6、「満足している」=5、「どちらかと言えば満足している」=4、「どちらかといえば満足していない」=3、「満足していない」=2、「全く満足していない」=1と点数化し、それぞれの項目の平均値及び標準偏差を算出した（表3～表14）。

表3 専攻別にみた「授業全般」に対する満足度

専攻	平均値	標準偏差	人数	効果量
哲学	5.03	0.696	36	$\eta^2 = .041$
日本文学	4.79	0.917	105	
英語文学文化	4.83	0.706	113	
史学	4.68	0.707	87	
国際関係	4.55	0.738	116	
経済学	4.57	0.737	42	
社会学	4.70	0.720	73	
心理学	4.70	0.689	77	
コミュニケーション	4.64	0.600	96	
言語科学	4.46	0.731	100	
数学	4.39	0.802	41	
情報理学	4.39	0.761	31	
合計	4.66	0.748	917	

表4 専攻別にみた「全学共通カリキュラムの授業」に対する満足度

専攻	平均値	標準偏差	人数	効果量
哲学	5.03	0.747	35	$\eta^2 = .023$
日本文学	4.65	0.911	104	
英語文学文化	4.71	0.831	113	
史学	4.60	0.754	87	
国際関係	4.54	0.755	114	
経済学	4.50	0.834	42	
社会学	4.64	0.752	73	
心理学	4.57	0.733	77	
コミュニケーション	4.53	0.632	96	
言語科学	4.49	0.772	100	
数学	4.49	0.637	41	
情報理学	4.42	0.720	31	
合計	4.59	0.774	913	

表5 専攻別にみた「第一外国語科目等の英語の授業」に対する満足度

専攻	平均値	標準偏差	人数	効果量
哲学	4.69	0.920	36	$\eta^2 = .048$
日本文学	4.26	1.000	105	
英語文学文化	4.70	0.925	113	
史学	4.21	0.990	87	
国際関係	3.95	1.156	116	
経済学	4.43	0.831	42	
社会学	4.42	1.004	72	
心理学	4.14	0.838	77	
コミュニケーション	4.25	0.945	95	
言語科学	4.36	1.020	100	
数学	4.15	0.882	41	
情報理学	4.26	0.930	31	
合計	4.30	0.997	915	

表6 専攻別にみた「第二外国語科目の授業」に対する満足度

専攻	平均値	標準偏差	人数	効果量
哲学	4.57	1.008	35	$\eta^2 = .024$
日本文学	4.45	0.994	104	
英語文学文化	4.73	0.889	113	
史学	4.51	0.913	87	
国際関係	4.50	0.986	115	
経済学	4.50	0.804	42	
社会学	4.72	0.826	72	
心理学	4.45	0.753	77	
コミュニケーション	4.43	0.739	95	
言語科学	4.27	1.014	100	
数学	4.27	1.001	41	
情報理学	4.42	0.923	31	
合計	4.49	0.915	912	

表7 専攻別にみた「学科科目（専門）の授業」に対する満足度

専攻	平均値	標準偏差	人数	効果量
哲学	5.25	0.770	36	$\eta^2 = .066$
日本文学	5.13	0.855	104	
英語文学文化	4.96	0.767	113	
史学	4.80	0.847	87	
国際関係	4.70	0.836	116	
経済学	4.62	0.731	42	
社会学	4.89	0.826	73	
心理学	4.95	0.809	77	
コミュニケーション	4.83	0.721	96	
言語科学	4.51	0.862	99	
数学	4.51	0.675	41	
情報理学	4.45	0.925	31	
合計	4.82	0.832	915	

表8 専攻別にみた「卒業論文・Final Presentation・数学講究・情報理学講究」に対する満足度

専攻	平均値	標準偏差	人数	効果量
哲学	5.31	0.624	36	$\eta^2 = .043$
日本文学	4.86	0.914	105	
英語文学文化	4.95	0.833	113	
史学	4.61	0.840	87	
国際関係	4.80	0.916	116	
経済学	4.57	1.016	42	
社会学	4.81	0.898	72	
心理学	4.77	0.857	77	
コミュニケーション	4.66	0.831	96	
言語科学	4.44	0.967	100	
数学	4.90	0.831	41	
情報理学	4.71	1.101	31	
合計	4.76	0.902	916	

表3～表8には専攻別に授業に対する満足度に関する6項目の平均値および標準偏差を示している。これらの表を見ると、ほぼ全ての項目かつ専攻で、満足度の平均は4.0以上であった。「学科科目（専門）の授業」（表7）については、中程度の効果量（ $\eta^2 = .066$ ）が見られ、専攻間で「学科科目（専門）の授業」に対する満足度にやや差が見られたが、授業に対する満足度はほぼ全ての専攻で高いと言える。

表 9～表 14 では、授業に対する満足度について、受験時における本学の志望順位別に比較した。平均値には志望順位間にさほど大きな違いは見られず、効果量も小さい。

表 9 志望順位別に見た「授業全般」に対する満足度

志望順位	平均値	標準偏差	人数	効果量
第 1 志望	4.83	0.740	256	$\eta^2 = .035$
第 2 志望	4.69	0.741	163	
第 3 志望	4.68	0.710	168	
第 4 志望以下	4.48	0.746	321	
合計	4.66	0.749	908	

表 10 志望順位別に見た「全学共通カリキュラムの授業」に対する満足度

志望順位	平均値	標準偏差	人数	効果量
第 1 志望	4.76	0.764	256	$\eta^2 = .030$
第 2 志望	4.64	0.770	162	
第 3 志望	4.62	0.674	167	
第 4 志望以下	4.42	0.805	319	
合計	4.59	0.775	904	

表 11 志望順位別に見た「第一外国語科目等の英語の授業」に対する満足度

志望順位	平均値	標準偏差	人数	効果量
第 1 志望	4.42	0.948	255	$\eta^2 = .020$
第 2 志望	4.41	0.956	162	
第 3 志望	4.36	0.885	168	
第 4 志望以下	4.11	1.087	321	
合計	4.30	0.999	906	

表 12 志望順位別に見た「第二外国語科目の授業」に対する満足度

志望順位	平均値	標準偏差	人数	効果量
第 1 志望	4.60	0.886	255	$\eta^2 = .014$
第 2 志望	4.61	0.881	161	
第 3 志望	4.46	0.895	168	
第 4 志望以下	4.36	0.954	319	
合計	4.49	0.917	903	

表 13 志望順位別に見た「学科科目（専門）の授業」に対する満足度

志望順位	平均値	標準偏差	人数	効果量
第 1 志望	4.92	0.803	256	$\eta^2 = .018$
第 2 志望	4.93	0.823	162	
第 3 志望	4.84	0.776	167	
第 4 志望以下	4.68	0.874	321	
合計	4.82	0.834	906	

表 14 志望順位別に見た「卒業論文・Final Presentation・数学講究・情報理学講究」に対する満足度

志望順位	平均値	標準偏差	人数	効果量
第 1 志望	4.84	0.822	256	$\eta^2 = .014$
第 2 志望	4.87	0.855	163	
第 3 志望	4.81	0.889	168	
第 4 志望以下	4.62	0.982	320	
合計	4.76	0.904	907	



次に、表 9 から表 14 にある 6 項目の得点を合計し項目数で割った項目平均 (M=4.60, SD=0.670, 最大=6, 最小=1, 因子分析で次元性も確認。α = .886) を算出し (以降「授業満足度得点」とする)、専攻別および志望順位別に満足度得点を比較した。

表 15 は、専攻別に見た授業に対する授業満足度得点の分析結果である。全専攻で授業満足度得点の平均値が 4.0 以上であり、授業に対する満足度は高いと言える。効果量を見ると  $\eta^2 = .043$  で、授業満足度得点に関する各専攻の差はそれほど大きいものではない。

表 15 専攻別に見た授業に対する授業満足度得点

専攻	平均値	標準偏差	人数	効果量
哲学	4.98	0.599	34	$\eta^2 = .043$
日本文学	4.68	0.741	102	
英語文学文化	4.81	0.642	113	
史学	4.57	0.642	87	
国際関係	4.51	0.685	113	
経済学	4.53	0.683	42	
社会学	4.69	0.689	71	
心理学	4.60	0.571	77	
コミュニケーション	4.56	0.576	95	
言語科学	4.42	0.697	99	
数学	4.45	0.635	41	
情報理学	4.44	0.697	31	
合計	4.60	0.670	905	

次に、志望順位別に見た授業満足度を比較した (表 16)。志望順位が高いほど授業満足度得点はやや高くなる傾向がみられるが、効果量は  $\eta^2 = .036$  と小さく、これもまた志望順位間の差は小さいと言える。

表 16 志望順位別に見た授業満足度得点

志望順位	平均値	標準偏差	人数	効果量
第 1 志望	4.73	0.645	255	$\eta^2 = .036$
第 2 志望	4.70	0.655	159	
第 3 志望	4.63	0.599	166	
第 4 志望以下	4.44	0.702	316	
合計	4.60	0.670	896	

図1～図5は、2017年度～2019年度の「授業満足度」について、「大変満足している」「満足している」「どちらかと言えば満足している」の回答結果を比較したグラフである。2019年度から、「第二外国語の授業に対する満足度」の設問を追加したため、この報告書では、その他の5項目の経年変化を載せる。

図1～図5を見ると、「第一外国語科目等の英語の授業」は他の項目と比べて若干物足りなさを感じているものの、本学の授業に対する満足度は毎年高いと言える。特に、4年間の学びの集大成として全員が取り組む卒業論文等に対する満足度は、毎年2割以上の学生が「大変満足している」と回答している。これは、本学の「学生一人ひとりを大切に育てたい」という思いのもと、きめ細かな指導を行っている結果であると言えるだろう。

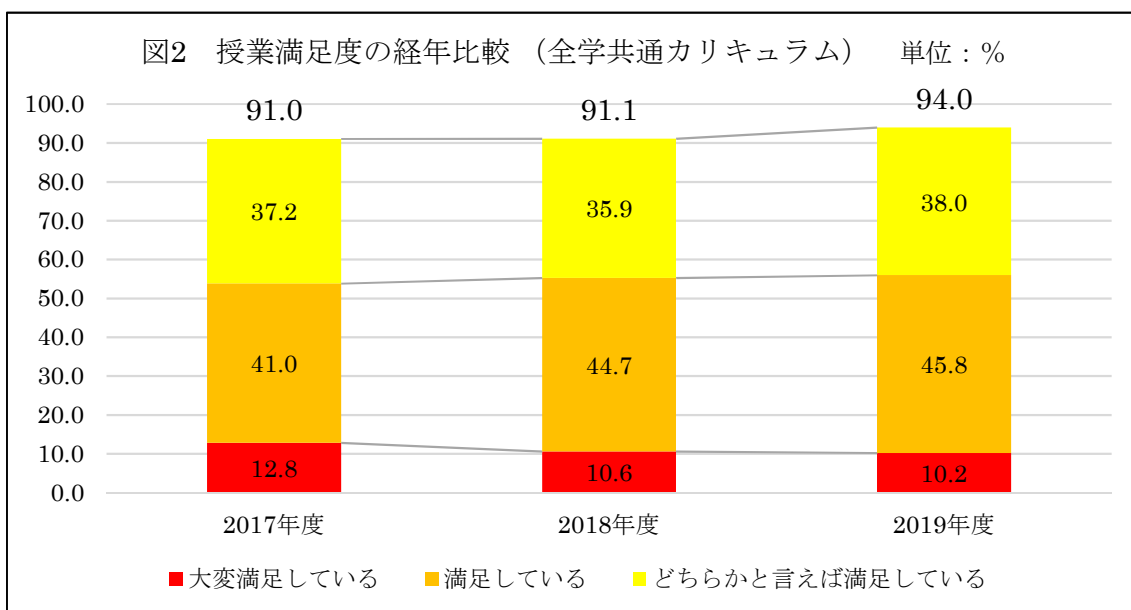
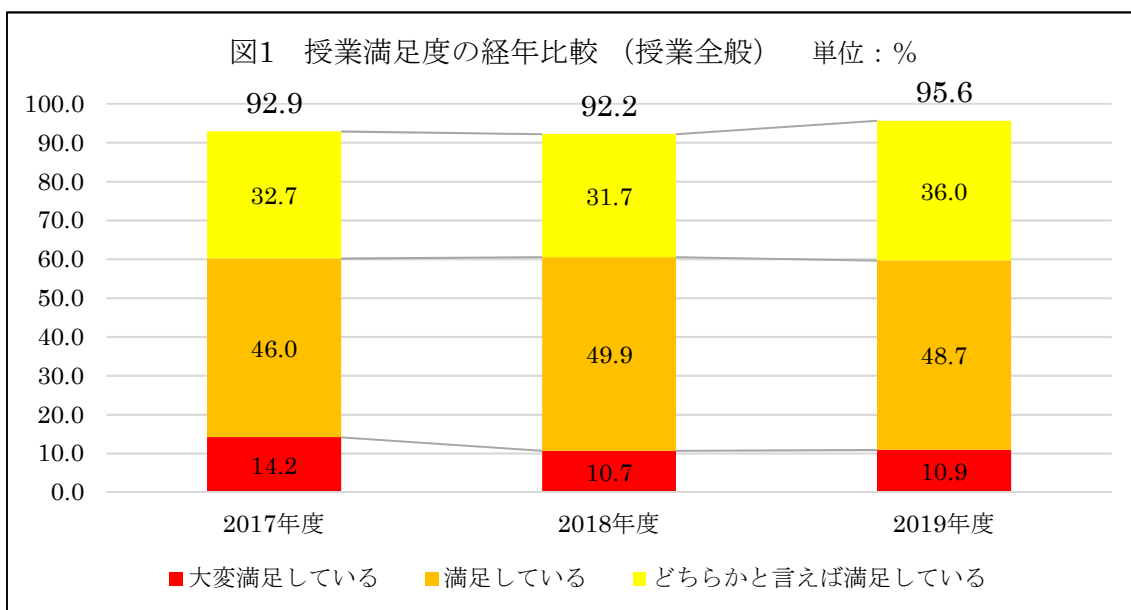


図3 授業満足度の経年比較（第一外国語等の英語の授業） 単位：%

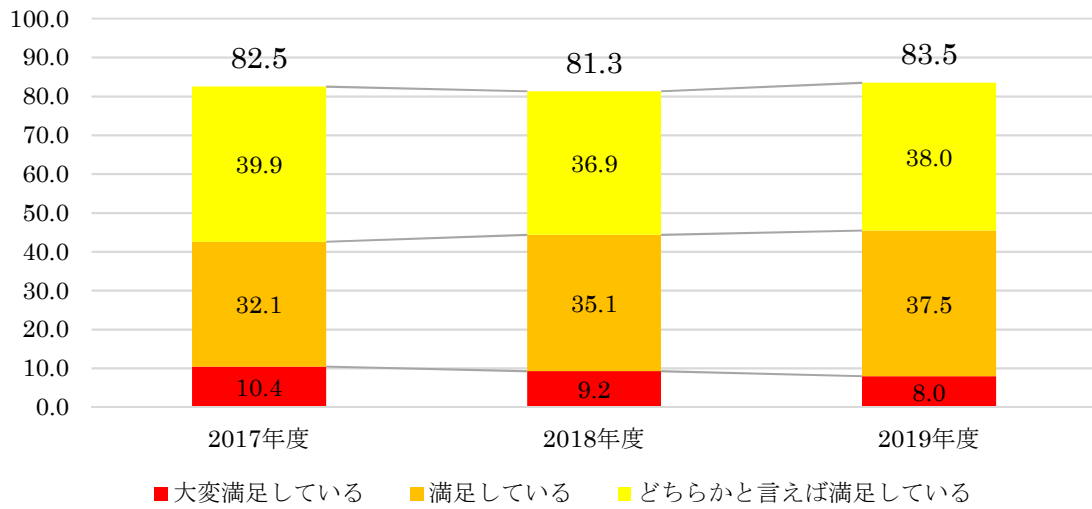


図4 授業満足度の経年比較（学科科目（専門）の授業） 単位：%

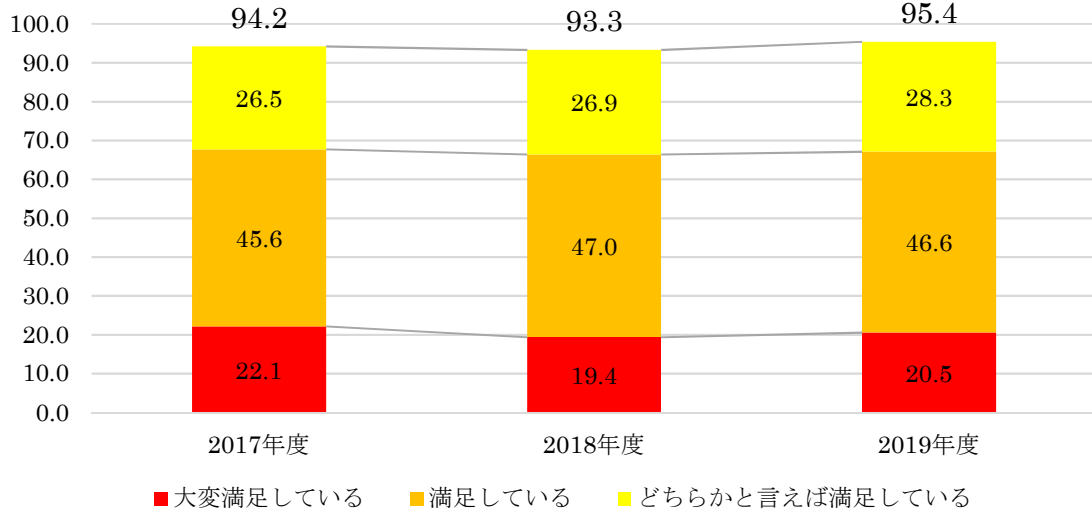
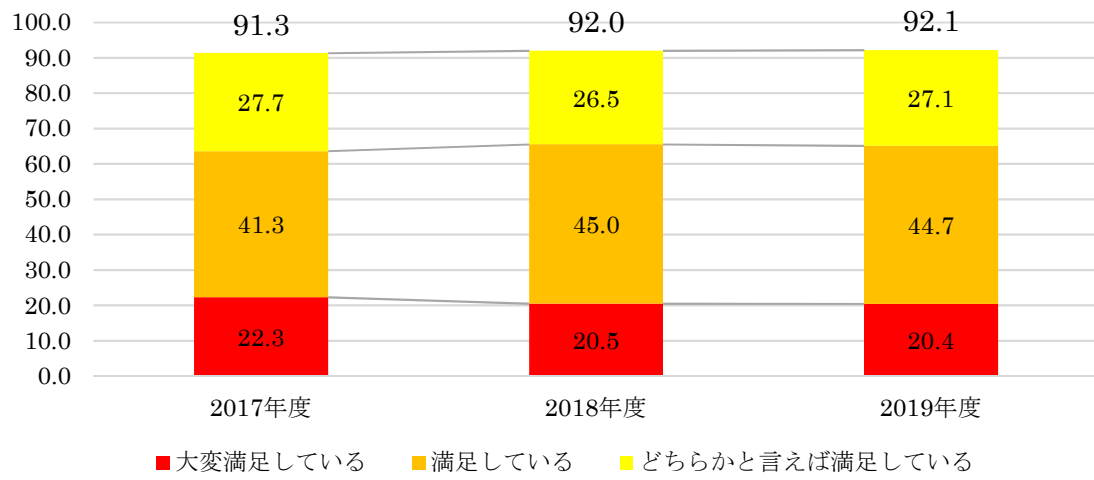


図5 授業満足度の経年比較  
(卒業論文・Final Presentation・数学講究・情報理学講究) 単位：%



## (2) 理解が深められたと思う項目の集計・分析結果

図6は、「大学での4年間の学びを通じて理解を深めることができたと思うこと」を調べるため、「日本の歴史と文化に対する理解」「多文化・異文化に対する理解」「国際的な諸問題に対する理解」「現代社会で生起する諸問題に対する理解」「自然や環境問題に対する理解」「自己の身体に対する理解」「キリスト教に対する理解」「ジェンダー問題に対する理解」「自分の専攻分野に関する理解」「自分の専攻分野に隣接する分野の理解」の10項目について集計した結果である。

「非常にそう思う」「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の3つを合計した割合を見ると、「自分の専攻分野に関する理解」が最も高く、96.7%である。次に「ジェンダー問題に対する理解」で94.0%、「自分の専攻分野に隣接する分野の理解」の91.8%であり、「専門性と幅広い教養を持った女性」の育成を目指す、本学の教育の成果や特徴を表わす結果となっている。

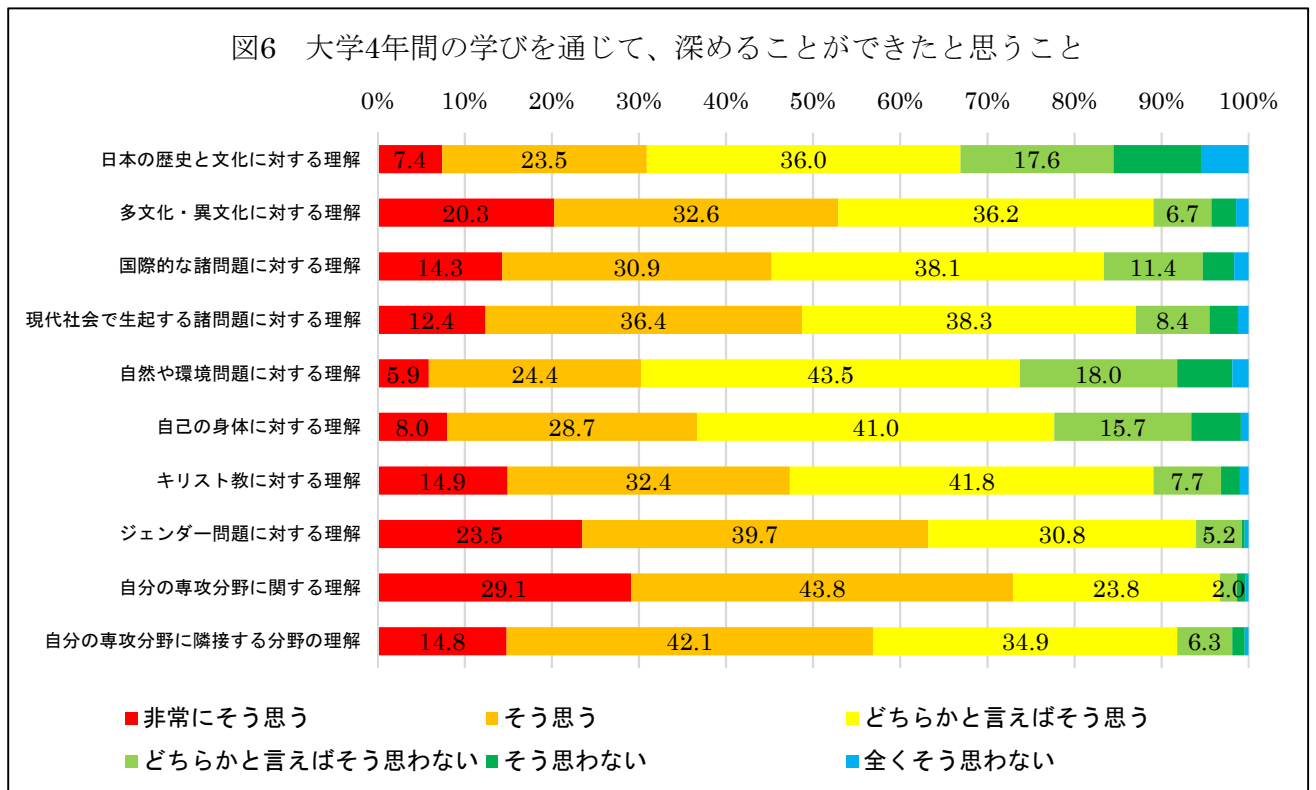


図6に示した10項目について、得点を合計しそれを項目数で割った項目平均を算出し、「理解総合得点」(M=4.42, SD=0.690, 最大=6, 最小=1; 因子分析で次元性も確認。α=.872)として、専攻別、志望順位別に理解総合得点を比較した。

表17は専攻別の理解総合得点である。平均値が一番高い専攻でM=4.67、一番低い専攻でM=3.97であったが、効果量を見ると、 $\eta^2 = .064$ であり、専攻間における理解総合得点の差は中程度であった。昨年度に続き、コミュニケーション専攻、数学専攻、情報理学専攻の点数が他専攻と比べてやや低いため、改善の方策を考える必要がある。

表17 専攻別に見た理解総合得点

専攻	平均値	標準偏差	度数	効果量
哲学	4.67	0.847	36	$\eta^2 = .064$
日本文学	4.55	0.738	104	
英語文学文化	4.55	0.689	113	
史学	4.61	0.652	87	
国際関係	4.45	0.681	114	
経済学	4.40	0.600	42	
社会学	4.56	0.656	73	
心理学	4.29	0.613	76	
コミュニケーション	4.25	0.538	93	
言語科学	4.35	0.689	99	
数学	3.97	0.573	40	
情報理学	4.03	0.845	31	
合計	4.42	0.690	908	

理解総合得点を志望順位別に見ると、表18の結果となった。志望順位が高いほど、理解総合得点が高くなる傾向だが、効果量を見ると $\eta^2 = .027$ と小さく、志望順位によらず、その得点に顕著な差がないことが分かった。

表18 志望順位別に見た理解総合得点

志望順位	平均値	標準偏差	度数	効果量
第1志望	4.54	0.693	253	$\eta^2 = .027$
第2志望	4.51	0.651	160	
第3志望	4.45	0.651	168	
第4志望以下	4.28	0.707	318	
合計	4.42	0.691	899	

### (3) 身についたスキルに関する項目の集計・分析結果

図7は「大学4年間の学びを通じてどのようなスキルや力を身につけることができたと思うか」を調べるため、「学術的な文献の読解力」、「人の話を聞いて、要点をつかむ力」、「プレゼンテーションにおいて、効果的に話をする力」、「ディスカッションにおいて、論理的に意見を述べる力」、「論理的でわかりやすい文章を書く力」、「わかりやすいプレゼンテーション資料を作成する力」、「パソコンで図表を作成する力」、「課題に応じて、適切な資料を収集する力」、「相手や場面に応じたコミュニケーション力」、「グラフや表で示された統計資料を理解できる力」の10項目について分析したものである。

昨年度と同様に、「学術的な文献の読解力」、「人の話を聞いて、要点をつかむ力」、「論理的でわかりやすい文章を書く力」、「課題に応じて、適切な資料を収集する力」、「相手や場面に応じたコミュニケーション力」の5項目で、「非常にそう思う」「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の3つを合計した割合が8割を超えた。他の項目も全て7割を越えており、本学での学びを通して汎用的なスキルや力を身につけられていると考えている学生が多いことが分かった。今後は授業においてアクティブラーニングやプレゼンテーション等の機会を積極的に取り入れることで、汎用的なスキルや力の更なる向上をはかりたい。

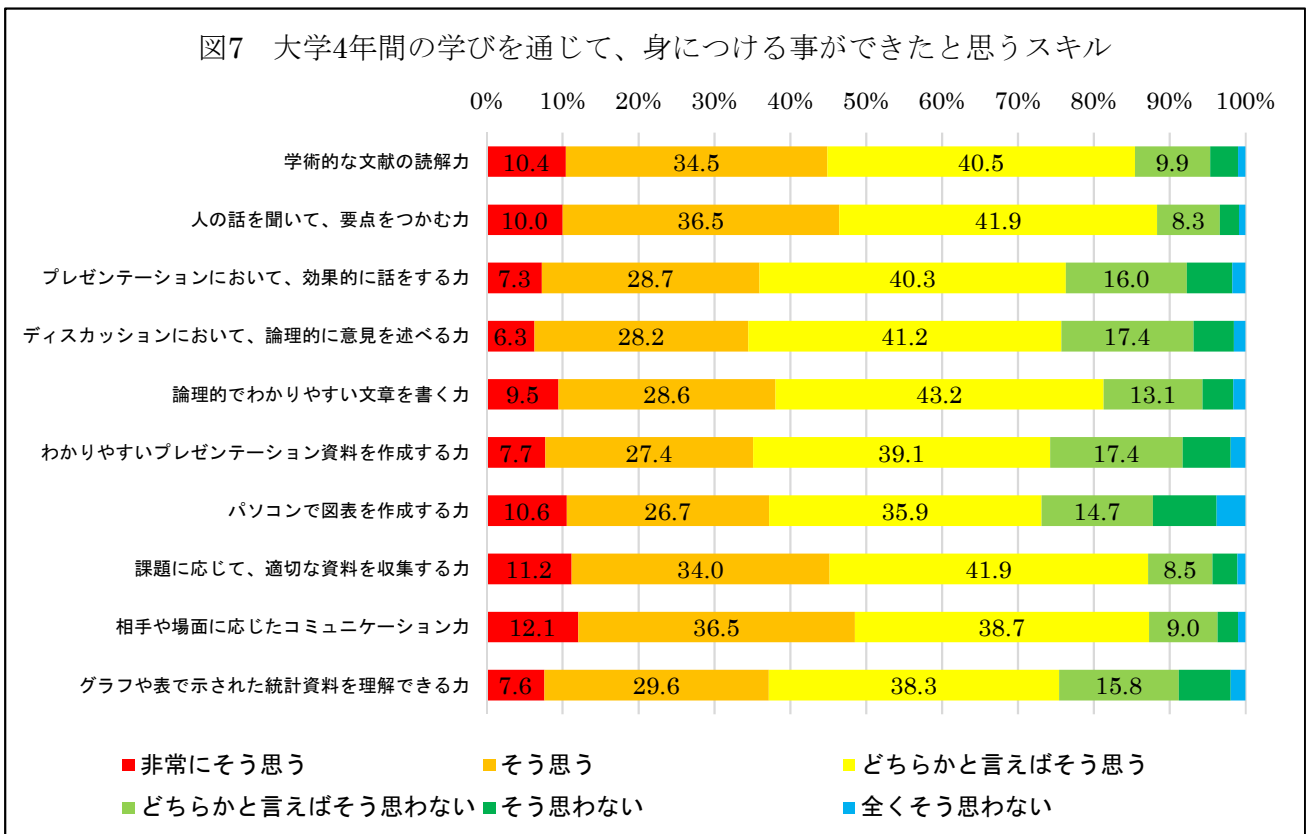


図7に示した10項目についても、得点を合計しそれを項目数で割った項目平均を算出し、「スキル総合得点」(M=4.22, SD=0.832, 最大=6, 最小=1; 因子分析で次元性も確認。α=.936)として、専攻別、志望順位別にスキル総合得点を比較した。

専攻別にスキル総合得点を見ると(表19)、一番高い専攻でM=4.44、一番低い専攻でM=3.71であったが、効果量を見ると、 $\eta^2 = .037$ であり、専攻間におけるスキル総合得点の違いは大きくはない。

表19 専攻別に見た授業に関するスキル総合得点

専攻	平均値	標準偏差	人数	効果量
哲学	4.15	1.039	35	$\eta^2 = .037$
日本文学	4.34	0.815	105	
英語文学文化	4.31	0.785	111	
史学	4.21	0.773	86	
国際関係	4.12	0.834	115	
経済学	4.32	0.974	42	
社会学	4.36	0.803	72	
心理学	4.44	0.820	76	
コミュニケーション	4.21	0.793	94	
言語科学	4.07	0.879	101	
数学	3.71	0.678	42	
情報理学	4.12	0.637	31	
合計	4.22	0.832	910	

スキル総合得点を志望順位別に見ると(表20)、効果量は $\eta^2 = .008$ と小さく、それぞれの得点に大きな差があるわけではないことが分かる。つまり4年間の学びを通じて身についたと感じる各スキルは、本学に対する志望順位が違う学生の間でほとんど差が見られない。

表20 志望順位別に見た授業に関するスキル総合得点

志望順位	平均値	標準偏差	人数	効果量
第1志望	4.24	0.818	256	$\eta^2 = .008$
第2志望	4.30	0.740	160	
第3志望	4.29	0.815	166	
第4志望以下	4.13	0.873	319	
合計	4.22	0.826	901	



#### (4) 身についた能力に関する項目の集計・分析結果

図8は、「大学での4年間の学びを通じてどのような能力を身につけることができたと思うか」を調べるため、「問題を発見し、的確に把握する力」、「状況を的確に判断する力」、「課題に応じ、収集した情報を、効果的に活用する力」、「物事を偏りなく多角的に検討する力」、「問題を解決する力」、「肯定的な意味で批判的に考える力」、「数字やデータに基づいて物事を考える力」、「自らを律して行動できる力」、「責任感」、「倫理観」、「率先してグループをまとめリードする力」、「人間関係を築いたり調整したりする力」、「主体的に行動する力」、「自主的に学習を継続する力」の14項目について分析したものである。「数字やデータに基づいて物事を考える力」と「率先してグループをまとめリードする力」を除いて、肯定的な意見が8割を超えた。

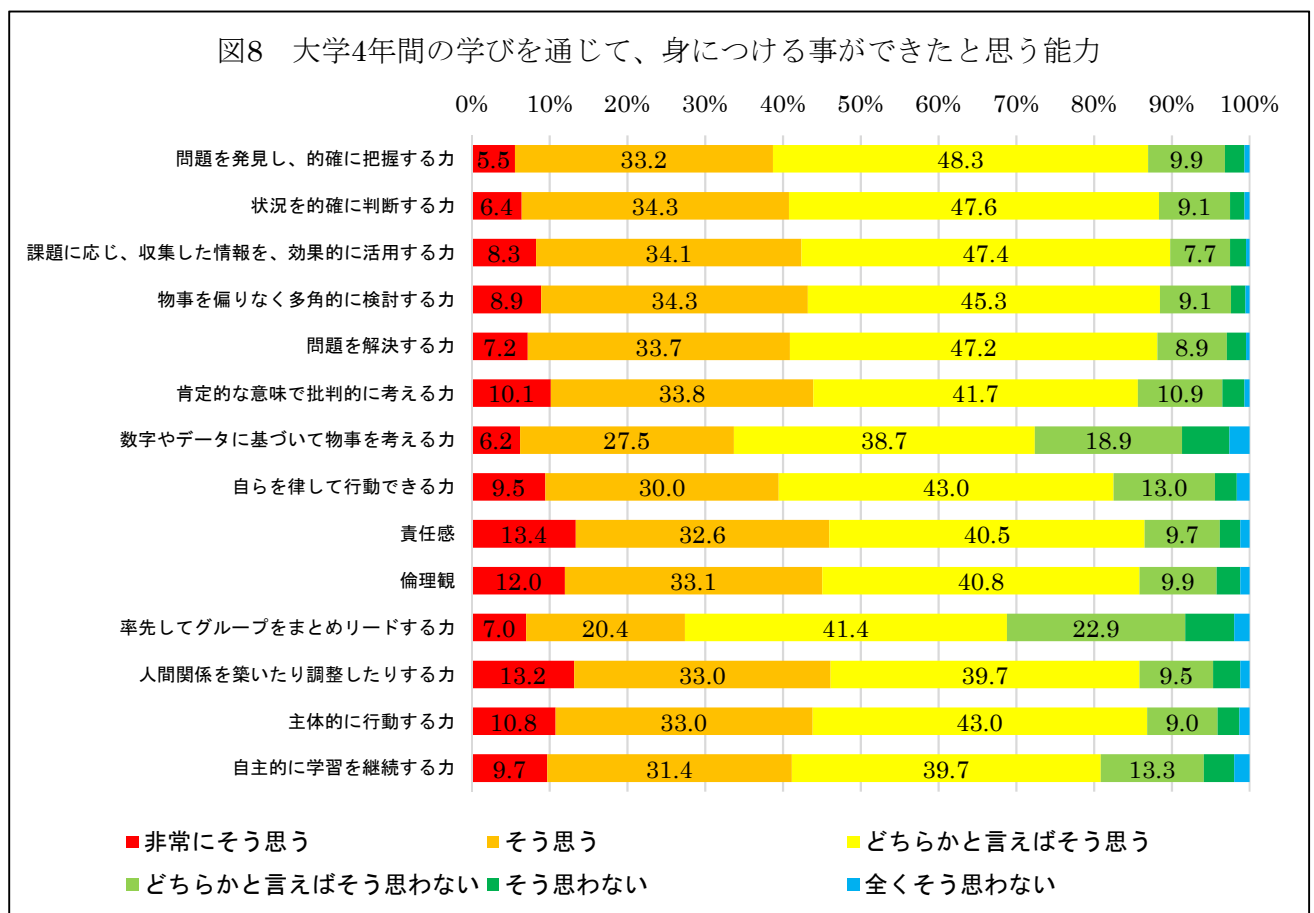


図8に示した14項目についても、得点を合計しそれを項目数で割った項目平均を算出し、「能力総合得点」(M=4.29, SD=0.765, 最大=6, 最小=1; 因子分析で次元性も確認。α=.955)として、専攻別、志望順位別に能力総合得点を比較した。

専攻別に能力総合得点を見ると（表 21）、一番高い専攻で M=4.43、一番低い専攻で M=3.99 であったが、効果量を見ると、 $\eta^2 = .023$  であり、専攻間における能力総合得点の違いはさほど大きくはない。

表 21 専攻別に見た授業に関する能力総合得点

専攻	平均値	標準偏差	人数	効果量
哲学	4.40	0.964	35	$\eta^2 = .023$
日本文学	4.38	0.741	106	
英語文学文化	4.41	0.766	113	
史学	4.35	0.769	86	
国際関係	4.24	0.766	116	
経済学	4.33	0.851	42	
社会学	4.43	0.649	72	
心理学	4.26	0.788	75	
コミュニケーション	4.25	0.691	95	
言語科学	4.10	0.842	100	
数学	3.99	0.520	42	
情報理学	4.25	0.745	31	
合計	4.29	0.765	913	

能力総合得点を志望順位別に見ると（表 22）、効果量は  $\eta^2 = .015$  と低く、それぞれの得点に大きな差があるわけではないことが分かる。つまり 4 年間の学びを通じて身についたと感じる各能力は、本学に対する志望順位が違う学生の間で顕著な差は見られない。

表 22 志望順位別に見た授業に関する能力総合得点

志望順位	平均値	標準偏差	人数	効果量
第 1 志望	4.35	0.758	254	$\eta^2 = .015$
第 2 志望	4.41	0.679	163	
第 3 志望	4.32	0.741	167	
第 4 志望以下	4.17	0.808	320	
合計	4.29	0.764	904	